

# 平成 29 年度 事業計画書

平成 29 年 4 月

大阪国際学園

## 1. 大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部

(1) 「募集力の強化」

平成 30 年 4 月に新学部の開設【経営経済学部（仮称）】並びに人間科学部スポーツ行動学科の男女共学化を計画している。18 歳人口の減少や大学間競争により、学生募集が厳しさを増すことは周知のとおりであるが、志願者を確保し、そのレベルを維持・向上させるため、ここ数年全学あげて実施してきた地に足つけた地道な活動（高校訪問・オープンキャンパス等）を、継続して実施していく。

また、大学の存在感とブランド力を高めるため、多様なメディアを活用して最新情報を提供、幅広い層への広報活動を実施していく。

(2) 「授業改善を含む「教学の改善」」

平成 28 年度に引き続き、「FDセンター」主導により、「授業向上マニュアル」の徹底と「授業改善」に係る PDCA を機能させる取組みを推進する。（「授業アンケート」の実施をはじめとする FD 活動の定着化に加え、非常勤講師担当授業を含めた授業見学の徹底・指導など、その改善にかかる取組みを進める。）

また、平成 29 年度、人間科学部から実施した「授業科目の精選」をはじめとする教育課程改編を、年次進行に応じて他学部においても進めるとともに中教審等の指針に沿った教学制度の改編定着を図る。

加えて、4 月 1 日付制定・公表の「3 ポリシー」のみならず、「学修成果の評価」（アセスメント）に係る制度設計にも具体的に着手する。

(3) 「国際化・グローバル教育の質の向上」

年間約 300 名の学生を海外留学・研修に派遣するとともに、海外研修のリピーターを増やすことにも努め、海外留学・研修参加によるグローバル感覚の醸成、及びグローバル社会で活躍できる人材育成を目指す。また、平成 29 年度末までに海外協定校 100 校を開拓し（平成 29 年 2 月現在 91 校）、協定書に基づく活発な教職員交流・学生交流へと繋げていく。

英語で行う授業科目の取組みとしては、主として欧米圏の交換留学生を対象とした科目の検討を行い、平成 30 年度から留学生別科での開講を目指す。

(4) 「課外教育活動の推進」

クラブ活動の支援として、シンボリックスポーツクラブ 7 団体の強化を図るとともに、コンディショニング管理システムの導入やトレーニングルーム並びに松下町校地体育施設の有効活用など環境・施設の充実を図る。

また、クラブ活動のグローバル化として、国際交流課と連携しながら海外遠征の推奨・サポートを行うとともに、クラブ所属学生のエンカレッジ・人間力の向上を目指し、ボランティア活動への積極的な参加も奨励していく。

## (5) 「地域貢献活動の推進」

2

本学の地域貢献活動は学園としての活動を含め、地域協働センターを中心に推進している。平成 29 年度の重点取組みは、

- ①「OIU キッズキャンパス」の立上げと活動の活性化
  - ②京都府南山城村、鳥取県鹿野町との連携強化
  - ③守口市社会福祉協議会、守口市安全なまちづくり協議会、守口市ローターアクトなどとの連携強化
  - ④閑空でのボランティア活動「AKV25 PARTⅡ」の継続と発展
- である。

「OIU キッズキャンパス」は、近隣の小学生に対する「学習支援」「居場所づくり」を目的とした活動であり、本学として初めての試みとなる。

これらの活動に加え、ガンバ大阪とのキッズサッカースクールの開催、近隣住民の方々への防災知識の向上を目的とした「防災フェスタ」の開催、公開講座の継続開催など多彩な地域貢献活動を推進していく。

## (6) 「キャリア教育と就職支援体制の強化」

「教養教育機構 キャリア部会」が主導し新カリキュラムに対応した「キャリア教育」が平成 29 年度からスタートする。就職活動と連動した教育プログラムとなる方向で、就職部としても全面的にバックアップを図る。併せてインターンシップ等産学連携の人材育成の場を通じた学生の実践力、社会人基礎力養成を図る。

また、継続的に就職部の組織能力向上を図り、就職決定率 100%達成に向けて、新規企業の開拓や既存企業との関係保全を進めるとともに、全教職員一体となった就職支援体制づくりを目指す。加えて、保護者を対象とした支援や卒業 3 年目までを目途とした卒業生の就職支援ニーズに応える体制を強化する。

## 2. 大阪国際滝井高等学校

### (1) 「アクティブラーニング型授業推進のための ICT 機器導入」

生徒の主体的、能動的そして協働的な学びを育むため、調べ学習や討論、発表などの参加型授業、いわゆるアクティブラーニング型の授業を推進し、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を図る。現在の自習室を ICT 活用のモデル教室とし、既に平成 28 年度中にノートパソコン、書画カメラ、短焦点プロジェクターやスクリーン、インターネット環境の整備等を行った。しかし、AL 型授業をさらに発展させるためには、1 クラス 40 名程度の生徒が、個人又はグループで同時に活用できるタブレット端末の導入やそれに伴うポケット W i - f i (大容量通信タイプ) 等の環境整備が必要である。併せて生徒用のパソコンを図書室等に整備し、放課後や昼休みなどに各自が e-learning 教材等を活用して自学自習できるようにする。

### (2) 「外部進学をめざす科・コースの充実」

国際科、普通科特進コース薬学系及び文系、看護進学コースの生徒の進路を実現するため、出前講義、大学見学等を充実させることにより外部大学との連携を強化する。

1. 兵庫医療大学との連携協定によるキャリア科「薬学基礎」の授業開設
2. 看護系学部のある大学への訪問または講師に講義・ガイダンス等を依頼
3. 関関同立など難関大学への訪問や講義・ガイダンスの依頼

### (3) 「国際交流事業の拡大」

国際交流事業として、従来の交換留学生の派遣・受入れに加え、ベトナムボランティア研修、ケンブリッジ研修など新たな研修を定着させる。このことにより、多くの生徒が英語力の向上だけでなく、異文化に興味を持ち、将来国際感覚を持った人として活躍するための知識や教養、視点を身に付けることをめざす。さらにはTV会議システムを活用した海外の高校生とのリアルタイムの交流を推進する。

### (4) 「募集活動の強化」

健全な収支状況を保つため、入学者の安定的確保を図る施策を行う。本校の特色化を鮮明にするため科・コース担当教員と連携し、新たな取組みを企画する。

また中学生の保護者への経済的負担の軽減を目的とした諸制度の見直しを行う。中学生への発信として、高校単独ではなく内部進学の見点から大学とも連携した対中学生イベントを企画し、守口キャンパスや松下町校地の見学などイベントの回数増や内容の拡大・充実を図る。そしてHPをはじめ、メディアへの積極的アプローチにより、多くの中学生・保護者の目を本校に向かせる情報発信を行う。

## 3. 大阪国際大和田中学校・高等学校

### (1) 「ICT及びアクティブラーニング型教育の推進（中学・高校）」

ICTを活用した教育を推進するため、設置されたプロジェクターを十分に活用し、授業の効率化を図る。その為、デジタル教科書等を購入する。また教員用のPCを数台導入し、授業支援を行なう。

また、本校にふさわしいアクティブラーニングの研究開発を行なう。

### (2) 「総合学習の充実（中学）」

平成29年度も引き続き、Voice、華道、チェス、囲碁、書道、マジック、ダンス、PBL (Project-Based Learning) といった本校独自の学習活動の充実を図る。

今後、ますます思考力、判断力、表現力の育成が求められており、本校の特色ある授業として定着させる。

### (3) 「国際交流の推進（中学・高校）」

現在、オーストラリアのタスマニアに姉妹校があるが、受入人数が減少している。オーストラリアは世界的に不安定な状況の中でも比較的安定しており危険度が少ない国である。親日的な交流校を増やし、生徒や保護者の国際交流に対する要望に応えられる環境をつくる。また、今年度もイギリスのケンブリッジ大学への研修を滝井高校と合同で実施する。

(4) 「ココロの学校の充実（中学・高校）」

社会で活躍している人たちの、生き様に触れ、聞かせることで、生徒の人間としての大いなる成長を期待して実施する。平成28年度は佐野有美、アルケミスト、石井光太、池間哲郎、川口加奈、らんま先生、税所篤快の各氏をお招きし講演して頂いたが、いずれの方のお話も生徒の心を動かしたと思われる。豊かな心を育成する上で非常に有効であると思われ、建学の精神を醸成する上でも有効であるので、今年度も継続して実施したい。この取り組みは他校には例を見ないものであり、本校として大いに誇れるものである。特色ある教育活動として定着させていきたい。

(5) 「生徒募集活動の積極展開（中学・高校）」

中学募集100名、高校募集280名の確保を目指すため、募集担当をはじめ、教職員一丸となって中学、高校の魅力をステークホルダーに伝えていく活動を積極的に推進する。

(6) 「志をたかめる」（中学・高校）

高校、中学校ともできるだけ早期に生徒自身に自分の将来を考えさせる取り組みが必要である。そのために、大学と連携して大学訪問や大学教授、大学院生、あるいは研究者に最新の研究成果などを講演して頂くなど、生徒に学びの刺激を与える取り組みを始める。結果として、生徒が希望する大学への進学実績を伸ばしていくことをめざす。

(7) 「グローバル教育の充実（English dayの実施）」（高校）

高等学校はますます英語教育の推進を図る必要がある。そのために大学の留学生を招聘し1日中、英語漬けの取り組みを行なう。

多国籍の留学生を招聘して様々な国の文化に触れる機会を提供するとともに、実際に英語を使ってコミュニケーションを図る機会とする。グローバルな視野の育成を図ることを目的とする。

4. 幼保連携型認定こども園 大阪国際大和田幼稚園

(1) 「教育・保育の充実」

建学の精神や理念に沿って、認定こども園としての教育・保育方針「生きる力の基礎を育成」に向け、基盤となる力を培う教育を実現する。園児が将来、国際社会で活躍するために必要となる英語力・読書力・ICT活用力などに苦手意識がうまれないよう、幼児期から親しみをもたせる。

平成29年度からは新しい園舎で0歳から5歳児までの施設となるため、教育・保育の内容や施設の使い方を共通理解していく。また、行事及び様々な環境を点検し、充実した新園舎の環境を存分に活用した教育・保育が展開できるよう工夫していく。

## (2) 「幼稚園教育と保育所機能の保育教諭同士の連携」

本園舎完成に伴い、1・2階が3歳から5歳児、3階が0歳から2歳児までの施設となる。これまでと生活の流れが全く違い、活動内容や行事についても違ってくるため、幼稚園教育の保育教諭と保育所機能の保育教諭とが連絡を密に取り合い、互いに安全・安心で充実した園生活を送ることができるようにしていく。また、3歳から5歳児の子どもが0歳から2歳児までの子どもとかかわり、今までとは違った異年齢の活動を展開しながら、互いに認め合うことのできる人間関係を構築することができるようにしていく。本格的にスタートする「幼保連携型認定こども園」として質の高い教育・保育を実現させる。

## (3) 「情報の発信と園児募集」

最新の設備や機能を兼ね備えた園舎であることだけでなく、教育・保育内容の充実及び大阪国際学園グループのこども園としてのメリット（大学施設の利用、大学・短大の教員・学生との交流・支援など）をさらにPRする。

近隣の幼稚園も「認定こども園」への移行が進んでいるが、長年培った幼児保育のカリキュラムによる質の高い教育・保育内容の実績を幅広く情報発信していく。

守口市の「幼保連携型認定こども園」としてのトップランナーであることの知名度をさらに向上させ、園児獲得につなげていく。

## (4) 「短期大学部幼児保育学科及び学園グループとの連携」

幼児保育学科との連携をさらに強化し、幼稚園教育だけでなく、保育機能についても、子どもと教員・学生との交流を充実させていく。また、保育教諭が大学教員から直接指導を受けることで、保育教諭の資質向上にもつなげていく。さらに、大和田中・高及び滝井高とも交流し、活動内容や経験の幅を広げていく。

以 上